

第三章 7-2 笠井地区の発展に尽くした人々（室町時代から現代）。

徳川家康浜松城へ入場。江戸幕府、幕末の志士が明治の世を開いてゆく。報徳運動。笠井の市。遠州織物。

榎吉家と山下佐治兵衛家の歴史、帯屋の系譜、石神家の古文書を参考にまとめた。先祖の時代を乗り越えてゆく歴史が見えてくる。

間違いは訂正していきます、ご指摘ください。

西暦	和歴	名前、年齢は満年齢で算出。※誕生日が不明なところは、父 22 歳、母 18 歳で長男誕生と推定しています。 主に分かっている、榎吉家系譜。山下家（米保田屋）系譜。池田家（帯屋）系譜、石神家の古文書の記録を 中心に笠井の歩みにせまってみます。赤色は、その年に誕生した人物。青色は笠井地区の事。
1453	享徳 2	初代 内藤弥一右衛門助堯 没。
1541	天文 10	羽鳥村 初代本家 松島源右衛門忠吉。
1560	室町 永録 3	引馬城（今川領）飯尾豊前守連龍。 桶狭間で今川義元が討死。 第 22 代 宗兵衛尉貞太（父と子、討死）、将監と名乗る、（榎吉家系譜より）
1563	永録 6	松平元康は、徳川家康と改名。

1568	永録 11	井伊谷（菅沼忠久、近藤康用、鈴木重時）3人衆の協力で、家康は引馬城へ入場。 飯尾 <small>ぶげんのかみのりたつ</small> 豊前守乗龍の後室 お田鶴の方、討死。築山御前は祠を建て、椿を供えて祀る。椿姫観音と呼ばれている。
1570	元龜 1	浜松城と改名。普請総奉行は木原七郎兵衛吉次。現場指揮は倉橋宗三郎。 1578年、1579年、1581年に、浜松城の修復工事をおこなった。 3代 榎吉佐次右衛門尉義之は、初代榎吉の祖となる。
1575	天正 3	武田信玄は三方原の合戦、勝利後に病死。羽柴秀吉は1580年に三木城攻めで全員皆殺し。
1582	天正 8	羽柴筑前守秀吉は、高松を城水攻め。太閤御判真蹟（太閤の自筆／雲煙安西（1807年～1852年）江戸後期の書画鑑定家が鑑定）が榎吉家に家宝として存在。三木城残党に対する立札？
1584	天正 12	6月2日、本能寺の変で信長討死。家康は伊賀越えて浜松城へ帰還。
1585	天正 13	関白秀吉、大阪城を築城。
1586	天正 14	徳川家康は浜松城から駿府城へ移る。浜松城城代は菅沼定政。
1588	天正 16	12月14日、駿府城を修復。
1590	天正 18	家康は江戸へ移る。浜松城主は堀尾吉晴。

1596	慶長 1	堀尾吉晴は、浜松城の石垣を築く。
1597	慶長 2	金指市場を開く、近藤李用は安藤清右衛門にその任を命じ、市は3日と8日に開いた。
1600	慶長 5	関ヶ原の戦いに勝利。浜松城主は堀尾忠（堀尾吉晴親子は徳川に味方した）。
1603	慶長 8	征夷大將軍 徳川家康は、江戸幕府を開く。
1605	慶長 10	<p>二代將軍 徳川秀忠 就任。駿府城の家康との二元政治がはじまる。</p> <p>幕府組織改革、浜松城主は松平忠頼。庄屋制度は、地方の土豪又はその土地の有力農民から選んで浜松城主が庄屋に指名。その土地の政事治安水利土木勸農祭礼を浜松城主の末端で責任をもたせた。</p> <p>笠井村土豪、山下佐治兵衛が庄屋に指名される。年代不明？</p> <p>組頭は読み書き算盤が出来る人を庄屋の補佐役とした。百姓代は、本百姓の中から村民の推薦で選んだ。</p> <p>西小栗家 初代幸昌院殿覚林道円大居士（重賢墓）、小栗廣伴の先祖が本家になる（正光寺に墓）。</p>
1607	慶長 12	<p>角倉了以（南蛮貿易の京都豪商）とその長男に、河川の岩石を削除する朱印を与えたが難工事だった。</p> <p>笠井往還は少し高く、暴れ天竜川の洪水でも小石混じりで水はけ良く、被害も少なく、農家が建っていった。</p> <p>笠冠観音（笠井の観音様）を大切に祀っていた。</p>

1614	慶長 19	冬の陣。浜松城主水野重仲。
1615	元和 1	夏の陣、豊臣家滅亡。浜松城主は水野重仲。
1616	元和 2	徳川家康が 4 月 17 日永眠 75 歳。浜松城主は水野重仲。
1619	元和 5	浜松城主、高力忠房は浜松城下町を整備。638 年まで 19 年在住。
1623	元和 9	2 代目 榎吉宗兵衛尉宣満 。尉とは鎌倉時代の官名。将監は役人の意味。土地の境界の杭を打つ役目。
1625	寛永 2	5 代目 内藤弥市右衛門久成 （青山忠俊蟄居につき預かり）。
1629	寛永 6	2 月 10 日、初代 米保田屋 （法誉道光居士・法永寺に墓）逝去。西伝寺過去帳より。庄屋 山下佐治兵衛 と同じ。
1636	寛永 16	遠州長上郡若林、奉造宮大明神宮一宇所、神主／ 松本喜太夫秀光 。大工／ 藤原朝臣彦左衛門 。 大施主／ 藤原氏朝臣 山下佐治兵衛泰正 。山下二郎左衛門 泰道 。山下三郎 泰光 。山下忠二郎 泰順 。（木札あり）
1643	寛永 20	検地帳により、〇〇国〇〇郡〇〇村 田畑、屋敷、耕作権利などを保障された。 宗門人別帳とは寺請け制度、檀徒制度のこと。1664 年寛文 4 年まで寺が住民を管理。 長上郡住民は長上郡の檀家となる。寛永 18、19 年に飢餓が起こり、寛永 20 年に田畑の永代売買禁止令が出た。
1644	正保 1	松尾芭蕉 （1694 元禄 7 年没）50 歳。 十湖宗匠 は、芭蕉の流れを汲んだ俳人で崇拝していた。

1648	慶安 1	<p>3代目 榎吉太左衛門尉貞治。太田備中守資宗は、笠井の市で塩・海産物の出張販売を許可。</p> <p>周辺の商人はその土地の特産品を持ちより、笠井は220年間にわたり集積地として発展。</p> <p>初代遠江浜松藩主、太田資宗・資代の浜松藩は、太田検地により領地152村3万5千37石。</p> <p>豊田郡（倉中瀬、羽鳥、恒武、常光、国吉、中ノ町。長上郡（笠井、笠井新田、上石田、小池）</p>
1652	承応 1	山下佐治兵衛は隠し田の疑いで自害。検地表は、池田庄三郎が代筆。
1664	寛文 4	檀家制度が始まる。
1670	寛文 10	帯屋初代、来室秀本居士 3月8日逝去（羽鳥村の住民だった事になる）、源長院の檀家。
1676	延宝 4	石原村西 小栗家2代目 幸徳院則岩道軌居士（八郎左衛門建立）
1677	延宝 5	延宝検地。本百姓は田畑を耕作。笠井市場の役家は、66軒（下組22、中組24、上組20）。
1680	延宝 8	住吉大明神に山下佐治兵衛が信心奉建立。
1683	天和 3	4代目 榎吉佐治右衛門尉貞政（推定）
1687	貞享 4	2月6日 直響章入居士（2代目 米保田屋）。
1697	元禄 10	賀茂真淵（1769 明和6年没）72歳、（国学者。伝統を引き継ぐ古学研究者／万葉集）。

1706	宝永 3	11月4日 到誉教道居士 (3代目 米保田屋)。 春日大明神、神主 神谷三郎兵衛。住吉神社 神主、山下佐治兵衛。
1707	宝永 4	6月22日 2代目 帯屋 断刀祐切居士
1719	享保 4	福来寺の観音堂は、3間半四方の大きさを存在していた。聖観世音菩薩像を安置 (笠井の観音様)。 国領組諸色覚帳の記録 (家数 112、百姓 76、水呑 36 / 人数 756、男 302、女 305、出入男 41、出入女 47)。
1740	元文 5	内山真龍 (1821年、文政4年没 81歳)。 池田庄三郎勝彦、小栗廣伴の国学の師、60歳の時に遠江国風土記伝完成。
1741	寛保 1	8月24日 3代目 帯屋 白岩徳翁居士
1742	寛保 2	初代 小澤屋 教誉圓了沙 (笠井村農家)。
1747	延享 4	羽鳥村の庄屋、松島右衛門 (但馬 / 良司茂岡)。文学者 和歌国学 (有馬紀行) を記す。
1748	寛延 1	12月28日 4代目 帯屋 利峯道養居士。
1752	宝暦 2	5代目 榎吉嘉平治宣太 (屋号美濃屋) 油商人となる。苗字帯刀許された。遠州北部の油などを統括する。 住吉神社、豊雷神社神主 山下菊次郎。笠井往還は道幅5間～6間。間口3間。

1755	宝暦 5	池田庄三郎勝彦（1806 文化 3 年 51 歳で没）。笠井の豪商、内山真龍など文化人と交流、笠井稻荷神社神主。 琴の名手。勝彦の弟 庄二郎、分家 庄兵衛、庄右衛門。嘉永 7 年の地図で中町に名前記帳あり。
1757	宝暦 7	初代 加藤平四郎。廉屋本家（1804 年文化 1 年、百姓代の記帳あり）推定 47 歳。
1758	宝暦 8	平井権右衛門の裁定で、上組 1 日 15 日、中組 5 日、20 日 下組 10 日、25 日と決まった。五・十の市始まる。
1765	明和 2	5 月 16 日 5 代目 帯屋 寛室壽延居士。
1766	明和 3	8 代目 池田傳重、羽鳥村の住人で源長院の檀家。
1767	明和 4	初代 山下吉十（嘉永 5 年 10 月 11 日 85 歳没）。
1769	明和 6	8 代目 高林方朗 ^{みちあきら} （1846 年弘化 3 年 77 歳没）、水野忠邦に（古今集）を講義。内山真龍に学ぶ。 有玉独礼庄屋 6 代目 榎吉惣五郎満清。西小栗家 4 代目 樹叢道栄居士（子榮の墓）。
1770	明和 7	石原村庄屋小栗廣伴 ^{ひろとも} （1845 年弘化 2 年 75 歳）。俳人、書家で服織神社に歌碑あり。内山真龍と深い交流。
1774	寛永 3	貴布祢の庄屋（推定）初代 木俣千代八。
1777	安永 6	池田庄三郎勝定（1843 天保 14 年 66 歳没）。羽鳥村で誕生、勝彦の娘と結婚？屋号を油屋から橘屋に変更。 笠井村から愛宕下（元魚町）引っ越す。羽鳥村松島右衛門の人名帖に記載あり。

1780	安永 9	<p>神谷與平治^{もりゆき}森之。下石田村庄屋、安居院庄七と出会い、村人と下石田報徳社を創った。報徳発祥の地。</p> <p>笠井村^{かどや}廉屋 2 代目 加藤平四郎。(推定?)</p>
1785	天明 5	<p>金指の酒屋、中村市左衛門^{ほうしょう}方章 (天保 11 年 55 歳没)。1807 年文化 4 年～1840 年天保 11 年歌舞伎を広めた。</p>
1787	天明 7	<p>二宮尊徳 (1856 年安政 3 年 69 歳没)。</p> <p>儒教の (仁義礼智信) 財政再建、農村復興。報徳仕法 (勤労、分度、推譲) 信用組合の仕組みを作る</p> <p>(道徳なき経済は犯罪である。経済なき道徳は寝言である。)</p> <p>山下佐治兵衛家から出火。笠井往還が全焼した。新興商人が笠井往還に出るチャンスが生まれた。</p>
1788	天明 8	<p>9 代目 池田傳十 (長女せい 1810 年誕生の父、二女むろ 1814 年誕生の父)。</p> <p>森町山中 8 世豊平 (天保 7 年 49 歳没)。豊平の子供 (長男豊明は古着商を創設、三男新村里助は森町遠讓社。</p> <p>六男小野江善六は報徳第一館社長、四ツ池開拓。七男伊藤七郎平は見付報徳館社長。報徳山中三兄弟で有名。</p> <p>初代 山下吉十 (嘉永 5 年 10 月 11 日 64 歳没)。妻くめ寛政 7 年生まれ (元治 1 年 11 月 7 日 69 歳没)。</p>
1789	天明 9	<p>安居院庄七 (1863 文久 3 年 74 歳没)。浜松商人や掛川岡田家、下石田村神谷家から報徳手法を伝えた。</p>
1790	寛政 2	<p>有賀豊秋、有玉村の国学の師。9 代目 若林三之助 (慶応 3 年 77 歳没)。春日神社を守ってきた。</p>

1794	寛政 6	初代 鈴木清六 (1827 年文政 10 年に棟札に名前あり 33 歳)。
1796	寛政 8	2 代目 木俣千代八、誕生 (初代は 22 歳、妻 18 歳と推定)。
1797	寛政 9	榎木夷白、大瀬村の俳諧の宗匠。十湖の師。
1799	寛政 11	初代、2 代目 木俣千代八は「永代大福帳」に天保 6 年までの 37 年間記帳する。 農家に糸を支給して賃織りをさせた。 7 月 11 日、6 代目 帯屋 天相榮地居士 逝去。古着商を始め、農業から商人へ。
1803	享和 3	竹山勝光 (天王村の竹山孫左衛門の二男)、池田庄三郎勝定の養子になる。 遠州報国隊へ大金を寄附した豪商。 10 代目 池田傳十 (長女せいの婿養子) 誕生。和泉屋を継ぐ、池田為吉の義父。
1804	享和 4	3 代目 加藤平四郎 (嘉永 2 年百姓代で名前の記帳あり)。推定 45 歳?
1806	文化 3	内藤弥市右衛門徳明 (1806 年没) は、1762 年から家督在位 44 年。妻は池田庄三郎勝彦の娘。学才で有名。
1808	文化 5	2 代目 山下吉十 (1880 年明治 13 年 72 歳没)。小野治郎七。 7 代目 榎吉佐治右衛門茂啓。奉再建八王子宮に、願主 榎吉佐治右衛門、榎吉伊兵衛の名前あり。

1809	文化 6	<p>藤田善平（明治 28 年 87 歳没）、龍禅寺村の生まれ。12 歳で橘屋池田庄三郎に丁稚に入店。11 年間修業した。</p> <p>天保 2 年帯屋へ養子に。帯屋善助を襲名。古着商を幅広く販路拡大して再興した。</p>
1810	文化 7	<p>2 代目 山下吉十（本名治郎七／1880 年明治 13 年 72 歳）。長女はつ婿養子。</p>
1811	文化 8	<p>松島岱助（明治 22 年 78 歳没）、茂岡の義父（羽鳥村庄屋）。新屋の孫・松島照七郎は遠陽市場に出店した。</p> <p>下石田村 神谷森時（森之の長男）。池田せい（9 代池田傳重の長女）。</p>
1811	文化 8 笠井の市	<p>豊平長男 山中豊明（1877 明治 10 年 66 歳没）。（弟は新村里助、小野江善六、伊藤七郎平）</p> <p>長男豊明は、1857 年安政 4 年 46 歳で家督相続し、古着商を森町で古着商創業した。仕入れ先は笠井。</p> <p>山形屋仁三郎、八木屋、山梨屋常七、美濃屋佐治右衛門、美濃屋佐一、廉屋儀八、廉屋直次郎、廉屋喜一郎、和泉屋五三郎、和泉屋千代八。糀屋清六、源馬房次郎、笠井屋善八、絞屋小野江善六、鍋屋増造などから小袖、長襦袢、裕、布団、蚊帳、古綿、反物、前掛け、裃纏。股引、袴、羽織、夜着、縞布などの古着を仕入れた。</p>
1812	文化 9	<p>10 代目 中村五郎七弥太郎（明治 26 年 61 歳没）。天神蔵創業者。安居院に学び明治 1 年に天神村報徳社設立。</p>
1813	文化 10	<p>初代 吉十の長女はつ誕生（明治 19 年 12 月 19 日 73 歳没）。最初の子が家を継ぐ家訓あり。</p> <p>下組 髪結 栄吉。婿養子 小平、養嗣子 池田太吉、実子 喜十、次男 幸次郎（山形屋養嗣子）。</p>

1814	文化 11	<p>9代目 池田傳重二女池田むろ（明治 24 年 77 歳没）。天保 2 年帯屋善助の養女・藤田善平と結婚。</p> <p>二代目 清六 笠井村（推定）。</p> <p>小栗松藹、恒武村庄屋。勤儉節約、積極商売で中興の祖、風流を好み詩文、書家、碁（父は仁右衛門守道）</p> <p>8代目 榎吉佐治右衛門三秀（嶋田勘平より養子となった）。榎吉家と嶋田家は親戚となる。</p>
1816	文化 13	<p>山下得寿、初代 山下吉十の長男。初代 重兵衛（1896 年明治 29 年 80 歳没）、願行院心誉智道得寿居士。</p>
1817	文化 14	<p>福山瀧助（1893 明治 26 年没 76 歳）。安居院の死後、小田原から派遣された。森町、吉田方面で普及活動。</p> <p>9代目 榎吉勘三郎重廣、子育て地藏尊を建立、組頭 榎吉勘三郎の名前あり。</p> <p>水野忠邦が浜松城主。</p>
1818	文政 1	<p>竹山梅四郎（茂清／明治 22 年 71 歳没）。幕末から明治の中興の祖。</p> <p>長女 有玉高林家へ。長男 謙三、次男平八郎。二女 岡田良一郎の妻・岡田良一郎の長男 良平、</p> <p>次男 一木喜徳郎、三男 純。明善の父の妻と梅四郎の妻は姉妹。</p> <p>3代目 木俣千代八（和泉屋千代八）は、笠井の市で反物を売り始めた。</p>
1819	文政 2	<p>9月 27 日、6代目米保田屋（還誉浄安通證居士）。</p>

1821	文政 4	<p>小山みい (1892 明治 25 年没 71 歳)。井上河内守正春が上林館林の技術を導入。</p> <p>小山みいがその技術を習得した。</p> <p>16 代目 内藤弥一右衛門隆弥 (小栗仁右衛門の 4 男が養子) が、弘化 3 年家督相続、明治 1 年神徒に改宗。</p> <p>4 月 7 日、7 代目 帯屋緑装道因居士、金指中村市左衛門方章と取引。帯の善助さんと呼ばれた。</p>
1822	文政 5	<p>山下才兵衛 (昇山の父/1893 明治 26 没 71 歳)。</p>
1823	文政 6	<p>稲垣久兵衛 (竜洋の内名の庄屋) 藤木様。帯屋のルーツになる家。</p>
1824	文政 7	<p>山下佐治平 (明治 32 年、75 歳没) 山下貢の父 明治 2 年の百姓一揆、屋敷売却した最後の笠井村庄屋。</p>
1825	文政 8	<p>神谷正信 (明治 38 年没 80 歳)、松島授三郎と西遠農学社、三遠農学社で報徳に生涯をかけた。随處の義父。</p> <p>藤井三郎四 (初代山形屋料理人)。明治 16 年の火事で、現在地に移動して山形屋の屋号を池田友次郎から譲渡。</p> <p>水野忠邦は大坂城代となる。</p>
1826	文政 9	<p>廉屋本家 4 代目 加藤平四郎。加藤儀八の兄。父は嘉永 2 年、百姓代。</p> <p>絞屋主人 小野江善六 (1906 年明治 39 年 80 歳没)。報徳家浜松報徳館社長、四ツ池を開墾。森町の山中家から養子となった。</p>

		<p>41 歳、池田庄三郎勝道は遠州報国隊留守部隊の幹部。勝光 64 歳の息子？明治政府で判事補となった？</p> <p>福来寺は浜松城主の代々御除地で 1 反 6 畝 4 分（記録）。水野越前守忠邦は京都所司代となった。</p> <p>榎吉家文書（本百姓 128、内庄屋 1、組頭 4、水呑 27。総人数 653 人、男 321 人、女 332 人）</p>
1828	文政 11	<p>松下伝八（初代八木屋松下薬舗）34 歳の時、（江戸風景屏風六層）を購入。現在も保存中。</p> <p>初代 加藤儀八、（古着商）。廉屋の分家。4 代目 平四郎の弟（35 歳から 5 年間、高林卯平 12 歳が修行に来た）。</p> <p>初代 松下亀吉（八木屋・際物、印）。福来寺門前に店。</p> <p>野末九八郎（西遠農学社初代社長）、夏目喜平（鶴代篤農家）。</p> <p>水野忠邦は西丸老中となる。</p>
1829	文政 12	<p>伊藤七郎平（見付報徳館長）。森町の山中家から養子。</p>
1830	天保 1	<p>12 代目 榎吉陽平（万斛村鈴木権右衛門の息子／1889 年明治 22 年 59 歳没、陽春院慧園誉花楽乗連居士）。</p> <p>30 歳で美濃屋の養子となる。再婚 27 歳。笠井郵便局初代局長。寺田源次郎（枳屋、漆器、荒物）。</p> <p>3 月 16 日帯屋 8 代目（暮芳栄春居士逝去）。</p> <p>天保 2 年 6 月 16 日・6 月 16 日 8 代目大姉・9 代目 尼上座が死亡。</p>

1831	天保 2	<p>福川泉五（森町の豪商／1912 年大正 1 年 81 歳没）。鈴木藤三郎の恩人、引佐農業高校を藤三郎と創立した。</p> <p>9 代目 傳重の二女むろ、藤田善平と結婚して帯屋 10 代目を継ぐ。中和茂平。</p>
1832	天保 3	<p>金原明善（1923 年大正 12 年 91 歳没）。天竜川堤防に生涯を賭けた偉人。</p> <p>天竜川沿いの山の植林、実業家、和田村長。</p> <p>10 代目 中村五郎七（1893 年明治 26 年没 61 歳）、天神蔵創業者。安居院の指導を受けた報徳実践者、陸平の祖父。</p> <p>竹原弥吉。浅羽屋。55 歳のとき明治 20 年の財産調査で履物製造での純所得 44 円 7 銭 7 厘。土地 2 反 8 畝。畑地価 113 円 80 銭。</p> <p>伊東磯平治（1901 年明治 34 年 69 歳没）。嘉永 2 年榎吉勘三郎の長女と結婚。太八、逸郎、長女の父親。安政 5 年離縁。元治 1 年祝田の伊東家へ養子。（浜松委託会社社長、浜松信用金庫設立発起人、浜松財界で活躍）。</p> <p>笠井弁通（笠井村定明寺住職）。寺田長三郎、磯貝佐伝治。</p>
1833	天保 4	<p>池田弥重（1883 年明治 16 年没 51 歳）。21 歳家督相続、帯屋古着商修行。嘉永 7 年の地図に名前あり。</p> <p>安政 4 年 24 歳、魚の行商をおこなう。明治 5 年 39 歳、魚稼業。41、42、43 歳のとき仲町で田舎芝居興行。</p>

		谷島屋創業者、齋藤源三郎（1915年大正4年82歳没）。加藤清兵衛（實次郎の父）。10代松島清八郎。
1834	天保5	<p>「羽鳥村中農古名簿」池田貴平、吉左衛門、作兵衛、兵六の名前有り。</p> <p>池田庄三郎（勝定）が愛宕下へ引っ越すと記入あり。中村生海。</p> <p>三代目 清六（安政4年、明善の妹加賀18歳と23歳清六結婚）。元治1年、30歳で横浜の遠州屋を明善の父と共同出資で創業。水野忠邦は本丸老中となる。</p>

1835	天保6	<p>池田為吉（池田傳重長女の養子）。和泉屋為吉商店。浜松商工会議所創立の理事。山下庄屋の土地を買収。</p> <p>池田庄三郎の土地を買収。醸造酒池田工場（菊泉）。</p> <p>長男桂吉は西洋小間物商。長女こと、養子梅吉（隠居と呼んだ）、梅吉、二女まつ、養子神谷信治。</p> <p>司馬老泉（明治43年76歳没）。明治25年笠井在住。十湖句碑群の俳画、水墨画。源長院に墓を十湖様が建立。</p> <p>前島 密（1919年大正8年84歳没）。郵政制度確立。</p> <p>寺田平太郎（1887年明治20年52歳没）。煙草販売。推定6代目</p>
------	-----	---

1836	天保 7	<p>松島授三郎 (1898 明治 31 年 61 歳没)。5 歳の時に羽鳥村松島藤九郎の養子。14 歳で養命酒、油薬伝授。20 歳で下石田村神谷與平治宅にて安居院から報徳を学ぶ。31 歳に石原村被害を神谷正信と報徳手法で復興する。38 歳、伊平村へ引っ越す。42 歳に農学誠報社を開く。45 歳で西遠農学社を気賀で開く、50 歳三遠農学社社長。手弁当で農民の生活改善を指導した。</p> <p>徳川慶喜 (15 代将軍/1913 年大正 2 年 77 歳)。駿府で生活した。</p>
1837	天保 8	<p>長男 11 代目 池田傳十 (明治 37 年 67 歳没/平民)。和泉屋傳十。明治 23 年観音堂移築発起人。帯屋の保証人。</p> <p>宇田彦三郎 (上組旧家)。</p> <p>井上正直 (1904 年明治 37 年 67 歳)。最後の浜松城主。四ツ池開発や群馬県の織物技術を導入した。</p>
1838	天保 9	<p>10 代目 榎吉勘三郎。西の山子育て地藏尊、建立。年齢推定？</p> <p>11 代目 榎吉佐衛門。西の山子育て地藏尊、建立。年齢推定？</p> <p>岡田良一郎 (1915 年大正 4 年 77 歳没)。大日本報徳社社長。尊徳から直伝受けた。</p>
1839	天保 10	<p>三代目 山下吉十 (1896 明治 29 年 57 歳没)。津倉けいと結婚。糸保田屋明治 12 年 40 歳で隠居。</p> <p>明治 20 年頃、青厓の父と養子縁組して小田姓から山下姓に変わった、山下青厓。</p>

		<p>稲垣さわ（帯屋弥十の妻）、竜洋の稲垣家から嫁ぐ。藤木様。帯屋ルーツ4代目の始まり。2男3女の母。</p> <p>高林善治郎（春日神社初代総代下組代表）。</p> <p>大木元治（大木随處の本家）、定明寺の新田村の檀家を法光院へ移籍させたと口伝あり。</p> <p>小倉助一（初代小沢屋）、農業。</p> <p>10代目 榎吉佐衛門重春。</p> <p>独礼庄屋は、高林維兵衛（有玉下村）、鈴木権右衛門（万斛村）、山下佐治兵衛（笠井村）、松島但馬（羽鳥村）、幾次郎（下大瀬村）、牛右衛門（有玉新村）</p>
1840	天保 11	<p>4代目 木俣千代八、高機で生産があがる。</p> <p>5代目 酒屋 中村市左衛門方掌（1883年明治16年43歳没）、歌舞伎貸衣装を地方へ拡大した。</p>
1841	天保 12	<p>池田仁三郎（1906明治39年65歳没）、明治16年42歳に笠井上組火事。山形屋の屋号を藤井三郎四へ譲る。</p> <p>1904年明治37年63歳と町屋新築平面図に記あり。長男友次郎45歳。</p> <p>大木藺作、大木随處の父。</p> <p>岡本太郎平、下組の大地主。</p>

		<p>山下清七、2代目 吉十長女まちと結婚。慶応1年27歳で初代金物保田屋を創業。</p> <p>10代目 養子池田傳重・9代目傳重の長女せい、文政11年鈴木為吉と結婚 長男桂吉。長女こと・婿養子梅吉。</p> <p>水野忠邦は老中首座となる。俟約令、株仲間解散、風俗芸能娯楽出版の統制を断行したが失敗。</p>
1842	天保13	<p>大橋丑平、豊田屋萬荒物卸商。</p>
1843	天保14	<p>津倉けい（昭和10年90歳没）、3代目 山下吉十の妻。清七と春吉の妻の母。掛塚の廻船問屋津倉家の出。</p> <p>小倉助一、小沢屋初代。農業。青島忠平、春日神社下組初代総代。尾野屋（蚕、繭の販売）。</p> <p>島田源五郎、辻屋。島田の分家。傘製造卸。小杉善十、山下重兵衛と山下浅七の間に家があった。</p> <p>水野忠邦50歳は、天保改革失敗して老中を罷免された。</p>
1844	天保15	<p>木俣くら、十反引き織機発明。5代目 千代八の母。</p> <p>石津石松。小倉対次郎。松下仙四郎、八木屋分家。山下善吉。</p> <p>平井重蔵、気賀西遠農学社役員。※池田庄三郎勝定66歳没。勝光41歳。</p> <p>水野忠邦は借金を返済できず、浜松から出られない。</p>

1845	弘化 2 弘化 2	<p>今井兼吉、常田屋菓子製造。帯屋弥重の娘と再婚。帯屋龍之助の姉の息子半十が養子となる。</p> <p>山下小平、今井兼吉の隣に住み髪結い。帯屋龍之助の弟太吉を養子とした。</p> <p>源馬房次郎、寺島村旧家。織布卸。生駒和平、半田村。織布卸。</p> <p>井上河内守正春は織物技術を浜松へ導入した。小山みいが技術習得して指導した</p> <p>水野忠邦は老中蟄居された。借金の返済は井上正春が仲立して納めた。</p> <p>4月1日、7代目 米保田屋（全誉妙體居士）。</p>
1846	弘化 3	<p>松下仙五郎、八木屋分家、嘉永 2 年組頭。</p> <p>小栗五平、米五。白瀬仁平。</p>
1847	弘化 4	<p>4代目 島田勘平、春日神社初代中町総代 33 歳。榎吉家と親戚。酒天竜一を醸造。笠井銀行役員 34 歳。</p> <p>4 月、井上河内守正直が浜松城主に就任。神谷與平治森之が下石田報徳社創立。報徳発祥の地。</p> <p>神谷真弓、笠井町医師。</p>
1848	弘化 5 嘉永 1	<p>渡瀬友三郎、大瀬村の旧家。三遠農学社 2 代目社長。</p> <p>大橋太十。山田虎吉。</p>

1849	嘉永 2	<p>松島吉平 (十湖／1926 年大正 15 年 77 歳没)。遠州の偉人。引佐麿玉郡長。俳句宗匠。静岡県・浜名郡会議員。</p> <p>報徳訓導。池田徳平。松島竹七。5 代目 加藤直次郎 (1894 明治 27 年 12 月 12 日 47 歳没)。</p> <p>32 歳で笠井銀行副頭取。33 歳物産社社長。34 歳上組火事。明治 16 年長男喜一郎 16 歳に家督譲る。</p> <p>平四郎 41 歳、観音堂発起人襲名。笠井の市で織物が発展していく時のリーダー。</p>
1850	嘉永 3	<p>山下貢、遠主報国隊員で出征。屋敷売却後、中町 359 番地に住む。百姓一揆の時は 19 歳。父より 1 年先に死亡)</p> <p>山葉寅楠 (1916 年大正 5 年 66 歳没)、日本楽器創業者。池田嘉平。豊田為三郎。</p>
1851	嘉永 4	<p>17 代目 内藤弥市右衛門大作 (1914 年大正 3 年 63 歳没)。17 歳で遠州報国隊へ参加 (内藤刑部)。</p> <p>2 代目 加藤儀八。明治 13 年、29 歳で若倭神社上組初代総代。明治 34 年 50 歳まで 22 年間。</p> <p>46 歳、明治 30 年広告。古着商、菅笠卸、69 歳、初代笠井運送責任者。</p> <p>石神豊穂。春日神社宮司。</p> <p>富田久三郎、鳴門にて海水から塩化ナトリウム生産。坂東捕虜収容所建設費用寄附。酪農を学ぶ。医学の発明王。</p> <p>竹山謙三 (1913 年大正 2 年 62 歳没)、天王竹山家当主。遠州報国隊員、遠州紡績、銀行頭取。</p> <p>石神安平。鈴木弥十。小倉友次郎。榎吉壮市郎。</p>

1852	嘉永 5	<p>13 代目 榎吉太八 (1914 大正 3 年 62 歳没／笠郷院長誉光闡郵翁居士“闡はせん、ひらくの意”)、笠井村戸長、村長、町長を歴任。明治の開花期の笠井を牽引した。西の太八に東の十湖。</p> <p>鈴木浦八 (1918 年大正 7 年 66 歳没)、川東賀茂村村長、天竜川東堤防に貢献。畔の指導者、三遠農学社副社長。</p> <p>松下長四郎、中町履物製造卸。八木屋本家。</p> <p>澤田^{やすし}寧 (昭和 12 年 86 歳没) 金指生まれ。35 歳で弁護士。明治 35 年～衆議院議員 8 年。JR 東海浜松工場誘致。</p> <p>笠井辨秀 (1934 年昭和 9 年 8 月 25 日 82 歳没)、定明寺住職。</p> <p>河内常太郎、大瀬村庄屋。積志村合併の発起人。</p> <p>山下昇山、遠陽市場から東の道を完成。竹細工、木彫。養円寺総代。竹内八十八。松島源十。田辺万次郎。</p>
1853	嘉永 6	<p>高林卯平、初代加藤儀八家で修行後古着商。22 歳に伊勢神宮 18 回参拝。明治 12 年 26 歳で廉屋暖簾分け古着商。春日神社氏子本町総代を明治 31 年 45 歳～41 年 55 歳まで歴任。笠井町会議員 47 歳～54 歳。良駒を訓練し売買。終身赤十字社員証授与。44 歳の時、猶次郎を養子とした。(2 代目宇平)。秋山佐吉。島田幸作。</p> <p>平野又十郎 (1928 年昭和 3 年 75 歳没)。竜洋町出身。西遠銀行・遠州銀行設立。池田由太郎。</p> <p>11 代目 中村逸郎 (明治 20 年 2 月 34 歳没／榎吉太八弟) 1872 年明治 5 年中村家へ養子。陸平の父。</p>

1854	安政 1	<p>青島市平、尾野屋。糸繭卸。明治 13 年、春日神社本町世話人。</p> <p>中村逸郎（明治 20 年 34 歳没）、榎吉太八の弟。明治 5 年 19 歳、天神町中村家に養子となる。陸平の父。</p> <p>6 代目 中村藤吉（大正 12 年 69 歳没）、36 歳浜松豪商棒屋。安居院に学んだ報徳商人。浜松の企業へ融資、遠陽市場の発起人。十湖三男松島保平が番頭。父は藤吉。番頭に中村弥助。小間物、砂糖、履物など。</p> <p>2 代目 山下重兵衛、明治 15 年 28 歳の時に太物卸商宮本宣造の紹介状を持って東京へ、箱根を越えて徒歩で綿反物を売りに行った。この事で、他の業者が東北方面、信州方面などへ販売を拡大する切っ掛けとなった。</p> <p>山下太治平、山下貢の弟で貢と父の死後、山下家を相続した。その後、家宝の太刀等を山下藤吉に委ねた？</p> <p>山下春七（昭和 3 年 74 歳没）、掛塚廻船問屋（山家屋）の次男。2 代目 吉十の二女はまと結婚、北新屋となる。</p> <p>明治 9 年 22 歳で初代保田屋春吉を創業。呉服、太物、洋物、醤油味噌漬物製造、養蚕、笠井亭（義太夫講演）。</p> <p>磯貝清吉。藤井和十。</p>
1855	安政 2	<p>藤井濱吉、2 代目 山形屋料亭主人。福来寺に古希祝の石碑ある。帯屋龍之助の弟太助の次男が養子となった。</p> <p>市川秀太郎、鉄工所経営。</p>

		<p>鈴木藤三郎（1913年大正2年58歳没）、氷砂糖発明した森町の偉人。台湾製糖を創立。発明王。二宮尊徳の書籍と報徳文庫寄贈。松島十湖と刎頸の友。</p> <p>西村安太郎、漆塗り職人。笠井膳、椀などを製造卸。</p> <p>藤井和助、蛭子屋・和洋糸染。</p> <p>2代目 松下亀吉、明治16年28歳の時に笠井上組の火事に遭遇した。亀吉の妻と池田桂吉の後妻が姉妹。</p> <p>大正に入って、長男藤吉が桂吉の東の竹藪を開墾して、菊泉旅館を新築して営業。</p>
1856	安政3	<p>加藤徳次郎、古着商。榎吉純が自宅として購入した町屋の造りが残っている。</p> <p>石津鎌太郎、笠井上村32番地の地主。機織業、笠井町会議員。石津長八。寺田仁恵茂。神谷利平。</p> <p>加藤實次郎、丸加本家。先祖の記録は1808年下組代表。嘉永2年下組組頭。</p> <p>明治30年加藤清平、煙草仲買商、米穀商。養円寺参道の入り口。昭和5年春日神社石垣を實次郎、伊久蔵、清七と寄贈。高塚の小野田家と親戚。</p> <p>川島松之助、帯屋龍之助の姉が嫁いだ。明治16年の火事で再起できず田口長三郎に売却。</p> <p>川島屋と親戚（口伝）</p>

1857	安政 4	<p>鈴木新次郎、笠井町長を明治 25 年～29 年。29 年笠井委託（株）社長。34 年笠井銀行社長、昭和 3 年閉店終了。</p> <p>明治 40 年笠井報徳社副社長（明治 10 年鈴木乙吉の婿養子）。</p> <p>中村忠七（1922 年大正 11 年 65 歳没）、遠州織物組合理事長。浜松商工会議所会頭。</p> <p>今泉保太郎、笠井町町長 明治 30 年～明治 36 年。</p>
1858	安政 5	<p>山下青厓（昭和 17 年 84 歳没）、明治、大正、昭和に活躍した笠井在住の画伯。十湖門下に参加。山下吉十と養子縁組。</p> <p>鈴木幸作、明治 20 年 29 歳油幸商店開店。油を絞って売るから始め、肥料、米穀商と広げていった。明治 31 年 40 歳で春日神社太鼓寄贈。長女（油屋呉服店）、長男政平、三男幸八（雄踏中村家養子衆議院議員）。四男幸次郎（石神米穀店）。</p> <p>松下仙助、小池村で誕生 20 歳で松下家養子、24 歳西遠農学社に入会。明治 35 年警察笠井分署建設資金寄附。</p> <p>大島安治郎、大島屋。</p> <p>寺田友次郎（大正 1 年 54 歳没）、下組の米屋。屋号は米友。父平太郎は煙草販売。息子竹五郎から米屋継続中。</p> <p>松島格太郎、28 歳で家督相続。38 歳に堀場慧生は十湖と養子縁組して松島姓となった。46 歳のとき鐘楼建造。</p>

		<p>22世 鈴木円宗（昭和11年没）、23世 慧生和尚の代に、松島十湖総代と共に源長院で文化人と交流した。</p> <p>33代目（11代目 榎吉佐衛門重春）仁泉院義學禮道智山老居士。</p>
1859	安政6	<p>島田嘉平、初代鍋屋。明治22年30歳で鍋屋開店。鼈甲、櫛、軟膏、脂肪油、蠟、外洋薬を販売して鍋屋の屋号。</p> <p>明治26年34歳～大正3年55歳まで中町氏子総代。鍋屋呉服屋に転身。</p> <p>池田友次郎、24歳のとき笠井上組火事。52歳のとき福来寺御開帳。足袋、作業ズボンの仕立て。</p> <p>水野久平（1917年大正6年58歳没）、笠井村在住。チャンカラ機械製造先駆者。高井喜代吉。</p>
1860	万延1	<p>加藤伊久蔵、丸加。明治16年県内販路拡大。藤九郎は鍛冶町へ進出。英治郎は東海産業（株）社長。</p> <p>松島藤太郎、松島授三郎長男。伊平村練精堂薬舗。42歳に三島大社門前で薬舗開く。養命酒、油薬、興発丸、子宮散。</p> <p>池田桂吉、為吉長男。西洋小間物卸。材木商、船舶貸付、養蚕、貸家、株式。松下さくと再婚。</p> <p>弟の為友が養子となり池田写真館を経営、満州へ行く。為友は死亡し妻と子供が帰還して相続した。</p> <p>小杉源八、中町紫屋。和洋糸類、綿糸商。龍地村高菌の豪商、小杉紺屋の出。</p>
1861	文久1	<p>田口長三郎、田口薬局。島田徳太郎、笠井192番地。久米儀一郎、棟梁。御仮屋建設。</p>

1862	文久 2	<p>加藤清七、丸加。恒七クレアション（株）。有是、明治 16 年 21 歳に東北方面を販路開拓。春日神社へ寄贈多し。</p> <p>明治 35 年頃 40 歳で元料亭を買収。</p> <p>伊藤豊太郎（1939 年昭和 14 年 77 歳没）。蒲邨。書家。大般若經転写經五百万字、豊川閣へ奉納。俳号江山。</p> <p>祖父伊藤平六は明善の懐刀（筆算漢学の学者）。蒲村開墾、子安神社建立。長男豊太郎、長女さの（十湖の妻）</p> <p>竹原清太郎、浅羽屋。中町で履物製造小売り。明治 35 年の出火、帯屋類焼し東裏へ引っ越した。</p> <p>小倉茂吉、2 代目小澤屋。笠井上の火事（21 歳、父 41 歳）。40 歳、笠井委託（株）買収。43 歳、明治 38 年小澤屋開店。</p> <p>門奈五郎作、笠井新田町 39 番地 農業、笠井町学務委員、元浜名郡会議長。</p> <p>2 月 17 日天誉念法居士、8 代目 米保田屋。鈴木清三郎、笠井 338。鈴木與十、笠井 397。</p>
1863	文久 3	<p>4 代目 山下吉十（1919 大正 8 年没 56 歳）、明治 42 年 46 歳で遠江綿糸合資会社笠井支店、笠井の要職に就く。</p> <p>明治 44 年 48 歳のとき、福来寺御開帳寄附金。明治 12 年 16 歳で家督相続。</p> <p>宮本甚七（1940 年昭和 15 年 77 歳）、丸三呉服店。浜松商工会議所会頭、帝国製帽を誘致した。日本形染社長。</p> <p>笠井町八木橋周助の師。徳川家達（静岡藩主）。</p>

1864	元治 1	<p>川嶋清次郎、初代川島屋創業者。紙類、諸帳簿。長男光治郎、五男陸平（隆）、六男藤吉（白井快）、七男英雄（清輔）。市川仁三郎、笠井 174。山下又八、笠井 80。</p> <p>鈴木齋三郎、第 4 代笠井町長を 40 歳～52 歳 13 年間。66 歳で遠州輸出綿織物工業組合理事。永久社理事長。</p> <p>岡田良平（1934 年昭和 9 年 70 歳没）、文部大臣。京大総長。大日本報徳社社長。良一郎の長男。国学研究会開く（有賀豊秋、桑原真清、池田庄三郎勝光、庄二郎、中村源左衛門、長谷川権太夫）</p>
1865	慶応 1	<p>池田龍之助（1936 年昭和 11 年 71 歳没）、魚屋帯屋中興の祖。春日神社総代。</p> <p>山下藤吉（昭和 20 年 5 月 5 日 80 歳没）、10 代目米保田屋。</p> <p>加藤弥太郎、奉納御大典記念御百度石を昭和 3 年に寄附した。昭和 5 年雷神社鳥居を寄附（池田龍之助）。</p> <p>袴田源蔵、日吉軒。中町で床屋開店。二代目養子喜作は明治 26 年誕生（床屋）。現在の中央軒。</p> <p>森田乙四郎、御大典記念御百度石を昭和 3 年に奉納した。</p> <p>大木保太郎。</p>

1866	慶応2	内藤誠六、笠井408番地、医師。
1867	慶応3	<p>田村庫之助、笠井町初代松風屋酒店店主。日露戦争へ出征し、病になり病死。</p> <p>加藤喜一郎、廉屋6代目。16歳家督相続（火事に名前あり）。30歳で広告は大物と肥料。</p> <p>35歳のときに松風屋に屋敷売却。大正2年46歳で松下薬局に香典の記載あり。</p> <p>5代目 長男木俣千代八（1936昭和11年69歳没）。母くら、父4代目千代八、次男政八、3男幸八。</p> <p>15歳で家督相続。笠井物産社。20歳で西遠大物組合、25歳には仲町で木俣物産。58歳のとき日本形染宮本甚七社長39歳と日清紡浜松工場を貴布祢に誘致した。昭和8年66歳中安医院へ笠井の木俣物産を売った。</p> <p>豊田佐吉（1930年昭和5年63歳没）、豊田自動織機・発明王。</p> <p>5代目 島田勘平、圭司の祖父。明治の笠井のリーダー。笠井銀行発起人。天竜酒醸造。</p> <p>岡本巖（1942年昭和17年75歳没）、西遠女子学園創業者。</p> <p>一木喜徳郎（1943年昭和18年77歳没）、宮内相。岡田良一郎次男。</p> <p>7代目 金指 中村市左衛門彦太郎（昭和30年89歳没）。材木商に転身、金丸座初代社長。帯屋龍之助の妻の兄。</p> <p>1904年明治37年63歳で山形屋仁左衛門は町家を新築（図面あり）。</p>

1868	慶応4 明治1	<p>8月26日。遠州報国隊池田庄三郎勝光 64歳、1千万両、朝廷に11万両寄付金だす。</p> <p>長男池田勝通 41歳、池田祥民で留守部隊に参加。明治政府では司法省に出仕して判事補となった。</p> <p>明治19年5月判事補は廃止、と記事あり。池田庄三郎の事は、記事が断片的で不明なところが多い。</p> <p>豪商の生涯をいまだ謎である？本居宣長と平田篤胤により神道色の強い国家思想が主流となる。</p> <p>攘夷運動思想で行動者として進んだ。</p> <p>3代目 山下重兵衛、子供が優秀、早死にした。</p> <p>山下浅七（大正10年53歳没）、～1921年2代目 金物保田屋。若倭神社世話人、福来寺世話人。</p> <p>福田誠元、福来寺住職。小栗格太郎、本町。太物商、氏子総代。</p> <p>小栗弥市、小栗廣伴本屋の西の家の長男。商売が好きで笠井中町で創業した。婿春雄。孫寛。</p> <p>神谷眞弓（昭和21年78歳、終戦後死亡）、医師。4代目 山下吉十の妻ひさ。</p>
1869	明治2	<p>11代目 鈴木興平、若林笠井町974番地。前戸主は常吉、天保生まれ。春日神社の西隣に住む。次男和三郎、</p>

		<p>神谷久吉（昭和 6 年 63 歳没）、辻屋主人。氏子総代。青厓に学ぶ、丹青会入選。三男駒太郎。</p> <p>廃仏稀釈（福来寺の巻物）関所廃止。浜松藩消滅、井上正直は上総鶴舞へ転出、井上八郎奉行となった。</p> <p>山下佐治兵衛屋敷は百姓一揆で襲撃された。中町円正寺の近くへ避難した。</p>
1870	明治 3	<p>金田太平、大正 7 年朝鮮へ広幅織物視察。大正 14 年白木棉金田工場。笠井町長昭和 4 年～ 8 年</p> <p>末島、御嶽神社栄徳霊神鎮座。</p>
1871	明治 4	<p>鈴木勘七、鈴木幸作の姉の婿養子となり、明治 32 年油屋呉服店開店。</p> <p>山下太吉、帯屋龍之助の弟、山形屋幸次郎は次男が養子にいった、晩年は笠井町で糸瓜の仲買人をした。</p> <p>廃藩置県（浜松県できる）。断髪令。苗字つける。世襲名前の件、職業の自由選択、廃刀令。</p>
1872	明治 5	<p>大木久市郎（随處／1941 昭和 16 年没 69 歳）。笠井報徳社創立、大日本報徳社訓導、（報徳）月刊誌の俳句選者。</p> <p>2 代目 高林宇平、養子猶次郎、大正 15 年 54 歳～昭和 7 年 60 歳まで春日神社本町総代。</p> <p>明治 30 年 25 歳で廉屋古物卸商。三大区・八十二小区、区長選出。庄屋の名前を廃止して戸長となる。学制発布。</p> <p>常光村、川合次郎八。中善地村、松島源八。貴平村、内藤隆弥。石原村、藤田嘉平。末島村、岡本伊兵衛。</p> <p>倉中瀬村、田地川五兵衛。恒武村、小栗武右衛門。羽鳥村、松島清八郎。笠井村、加藤直次郎。副戸長榎吉太八。</p>

1873	明治6	<p>山崎延吉（昭和29年82歳没）、大正8年第4代三遠農学社社長。尊農愛村で農業の複合化推進した。</p> <p>岡田純平、良一郎の長男。大日本報徳社社長。</p> <p>三上義武、1926年大正15年に精華団の最初の氏子総代、53歳～1949年昭和24年76歳まで。</p> <p>神谷一夫、笠井町医師。掛塚の津倉彦治。三上義武は浜松一中の同級生。</p> <p>笠井郵便取扱所。源長院に羽鳥學校。大瀬学校笠井分校。浜松城は廃城。</p>
1874	明治7	<p>中村陸平（昭和11年61歳没）、中村酒造社長、浜松市長。</p> <p>池田延吉、13代目 和泉屋傳十の養子。池田たい（養女延吉の妻）。大正に和泉屋傳重家は浜松へ移転した。</p> <p>笠井上町春日神社が村社となる。一村一社で春日神社に他の神社は集約された。</p>
1875	明治8	<p>加藤清平、丸加の本家。22歳で明治30年煙草仲買商、米穀商。</p> <p>笠井新田村と笠井上村に分かれた。恒武学校。笠井学校設置。福来寺に巡查屯所。服織神社は郷社となる。</p>
1876	明治9	<p>14代目 榎吉政治（明治45年36歳没）、長男太八。榎吉竹治の父親。妻は中村あや（逸郎の娘）。竹治3歳。</p> <p>池田桂吉、西洋小間物、貸家、後妻と菊泉の妻が姉妹。養子池田為友（池田写真館）。</p> <p>門奈仁三郎、笠井町長 笠井町農会長 公吏 大正6年～昭和3年まで笠井町長（12年間）</p>

		<p>鈴木政次郎、鈴政式織機製造。1847 年昭和 17 年 6。浜松県は静岡県に合併</p> <p>3 代目 加藤儀八、明治 30 年笠井運送運転手 21 歳。笠井村消防団 倭組・奈組・志組。</p>
1877	明治 10	<p>3 代目 山下重平、20 歳、明治 30 年（太物卸、生薬、洋書販売）、早く死亡したので 2 代目が家を支えた。</p> <p>長男房治（東大卒・重平相続）、長女（一橋大學総長夫人）、次男（京大卒）、三男（山下磐雄の妹が妻）</p> <p>四男（養子・土屋教育長）、二女（由比の志田家に嫁ぐ）、五男山下光夫（山下医院）、長男の家督を相続した。</p> <p>笠井警察分署下組大須賀医院の隣に新築。中町に警察署長官舎建設。</p>
1878	明治 11	<p>服織神社に西南戦争の招魂碑建立、松島十湖が建立した。</p> <p>2 代目 重兵衛は 24 歳で家督継ぐ。父 62 歳、東京へ販売に行った人。</p> <p>10 月笠井村平民（当時の笠井のリーダー）</p> <p>29 歳加藤直次郎、50 歳初代加藤儀八、39 歳 3 代目山下吉十、41 歳目 11 代池田傳十、小杉善十 35 歳、</p> <p>37 歳で初代山下清七、43 歳で初代池田為吉。54 歳で山下左治平。26 歳、榎吉太八。31 歳、4 代目 嶋田勘平。</p> <p>35 歳、青島忠平。31 歳、高林善次郎。</p>

1879	明治 12	若倭神社拜殿建立。撫松庵建てる築山句碑建立。笠井新田学校設置。第 1 回県会議員選挙松島吉平 31 歳当選。 戸長) 中瀬村末島村 川合貞一郎、常光村 松島幾太郎、倉中瀬村 大橋善三郎、中善地村、松島末蔵、 貴平村内藤佐七、恒武村浅野五平、石原村藤田嘉平、羽鳥村鈴木保太郎。
1880	明治 13	石神良一郎、釜屋。若倭神社禮大祭世話人に選出される。木造御輿で渡御、9 月 8 日 9 日 (相殿春日神社)。 上町 3 代目 41 歳山下吉十、29 歳 2 代目 加藤儀八、仲町。33 歳 4 代目 嶋田勘平、榎吉太八 28 歳。 37 歳で本町青島忠平。高林善次郎 33 歳。川島初治郎、川島松之助。 中村與資平 (昭和 38 年 83 歳没)。県庁、静銀本店。建築家。
1881	明治 14	9 月 7 日、榎吉純 (1957 年昭和 32 年 77 歳没)。大正 3 年 33 歳の時に加藤徳次郎屋敷を購入した。 53 歳の昭和 8 年西洋館笠井郵便局を新築。 仁瓶芳太郎、大正 14 年 4 月職業女学校高校長として笠井町 625 番地に 44 歳の時着任した。 山本又六 (1980 年昭和 55 年 99 歳)、高知県、浜松工業高等学校初代校長。遠州木綿の知恵袋。 若倭神社 (春日神社相殿) 神輿を注文する。住民の寄付金集める。笠井銀行。引佐鹿玉郡長に松島吉平。 松下藤吉、大正 1 年 32 歳で菊泉旅館を開く。長女敏子昭和 40 年廃業。

1882	明治 15	<p>山下青城 (1962 年昭和 37 年 80 歳没)、青厓の長男。小室翠雲に山水画学ぶ。南画花鳥は父に学ぶ。</p> <p>島田嘉平次 (2 代目 鍋屋/大正 11 年 40 歳没)。呉服店に転換。嘉平 63 歳、浜松一中学生良太郎 16 歳。</p> <p>今井半重、2 代目 常田屋。阿多古の松野清五郎・ていは、今井家の養子となった。帯屋龍之助の姉の三男。</p> <p>若倭神社の神輿完成。2 代目 山下重兵衛は 28 歳で東京へ売りにいく。加藤平四郎は太物商物産社、設立。4 代目千代八が 42 歳で死亡、15 歳で 5 代目 千代八を継ぐ。母くら 38 歳で笠井の太物物産社創立。要職に就いた人。</p>
1883	明治 16	<p>松島保平 (1957 昭和 32 年没)、三立製菓 (株) 創業者。十湖の三男。6 代目 中村藤吉の番頭から独立した。</p> <p>豊田橋開通。笠井上組の大火 109 軒焼失。</p>
1884	明治 17	<p>2 代目 保田屋春七 (1934 年昭和 9 年 50 歳没)、本名、治郎七。</p> <p>原田濱人、1 月 1 日誕生 (みずうみ主宰)。長男喬、大正 2 年 3 月 5 日誕生。</p> <p>田辺喜一郎、竹石。笠井新田で十湖の門弟、随處と行動を共にしていた。</p> <p>奥山半僧坊の道標設置。中善地村外 8 ケ村の戸長・川合貞一郎が就任した。</p>
1885	明治 18	<p>松下幸助、松下薬局。明治 38 年 20 歳薬剤師開業免許合格、薬剤師免許状取得。</p> <p>小倉茂、20 歳で小澤屋総合衣料店、大正 4 年 30 歳で、廻り舞台、春日神社惣代。</p>

		<p>川上嘉市 (1964 年昭和 39 年 79 歳没)、3 代目 日本楽器社長。戦後貴族院、参議院議員。</p> <p>石橋湛山 (1973 年昭和 48 年 88 歳没)、首相。</p> <p>鈴木政平、2 代目 油幸。肥料、油。</p> <p>5 代目 鈴木清一郎、明治 37 年鈴木蘇三郎町長の時に、19 歳で収入役として抜擢された。大正 1 年助役～大正 9 年 35 歳で助役 (国勢調査) 写真。春日神社氏子総代を 24 年間務めた。</p> <p>松島十湖を本名とした。福来寺の本堂を建設。</p>
1886	明治 19	<p>笠井喜一郎 (1967 年昭和 42 年 9 月 7 日没)、定明寺の住職を辞退した。定明寺の東に住む。西山家が後任。</p> <p>笠井町町長小倉一丸 (昭和 52 年 3 月 11 日 92 歳没)。昭和 6 年から 8 年助役。9 年から 16 年まで、笠井町町長 7 年間。昭和 16 年笠井商工会発起人。顧問。昭和 52 年勲五等瑞寶賞。昭和 29 年笠井地区功労賞。</p> <p>河合小市 (1955 年昭和 30 年 69 歳没)、河合楽器創業者。</p> <p>松島格太郎、羽鳥村庄屋。源長院総代。</p>
1887	明治 20	<p>榎吉禮三、兄 政治明治 45 年 36 歳で死亡の為、25 歳の時に兄の妻あやと再婚。美濃屋を継ぐ。</p> <p>大正 7 年 31 歳の時に次男が誕生。(竹治の弟)</p>

		<p>鈴木道雄（昭和 57 年 95 歳没）、誕生鈴木式織機発明。スズキ自動車創業者。</p> <p>6 代目 島田喜一郎、明治 41 年 5 代目 長女の婿養子。大正 2 年島田洋品店を開業。大正 14 年離婚。</p> <p>（妻と娘死亡した為）。</p> <p>福来寺に戸長役場建設。青厓は上京。加藤平四郎が西遠太物卸商組合を笠井に設置。</p>
1888	明治 21	<p>池田彦十、49 歳で 13 代帯屋竜之助襲名。笠井町会議員。笠井青果市場発起人。戦前から戦後の魚屋を経営。</p> <p>五味豹四郎、米穀商。</p> <p>馬淵春濤、寺島の画家。帝国絵画協会会員。竹内栖鳳に師事。人物花鳥、竹に雀。</p> <p>高井芳雄（春雄）、十湖門弟。</p>
1889	明治 22	<p>石井彦太郎、昭和 19 年～21 年笠井町長。昭和 19 年、笠井新田町に開場の笠井青果市場会場社長。昭和 6 年織布業を始めた。</p> <p>笠井村（笠井新田村、笠井上村、笠井村が合併）。</p> <p>豊西村（中善地、羽鳥、倉中瀬、末島、中瀬、恒武、常光、石原、善地の一部、屋敷北、屋敷前、茂、竹橋、竹橋西、内字を一村とした）。</p>

1890	明治 23	<p>池田信吉 (1968 昭和 43 年 78 歳没)、4 代目 池友。メリヤス工場で下着製造。37 歳で洋品の小売店開く。</p> <p>川島光治郎、川島屋 2 代目。山下亀吉 (昭和 21 年 1 月 20 日 57 歳没)、米保田屋。復員後、長男山下修一は 24 歳で闘病生活。西小栗家の 6 代目 幸有院覚徳入居士 (第 10 代小栗八郎左衛門建立)</p> <p>水野以文 (昭和 49 年 84 歳没)、大正 2 年日本水彩画会結成。以文は十湖が命名した。中善地生まれ。</p> <p>鷹野つぎ (1943 年昭和 18 年 53 歳没)、小説家。島崎藤村の師事、松島十湖の養女となり嫁ぐ。</p> <p>岩崎豊、昭和 23 年～33 年まで浜松市長。</p> <p>中村藤吉 36 歳、遠陽市場開設。福来寺観音堂移築、山下吉十、池田傳重、加藤平四郎。</p>
1891	明治 24	<p>金田益吉、笠井 61 番地。商業、笠井町消防組頭、在郷軍人会笠井分会長。</p> <p>稲勝正太郎 (1977 年昭和 52 年 76 歳没)、竜洋町、天竜木材創業者。</p> <p>※笠井達磨市が始まった 1 月 9, 10, 11 日。9 月笠井町となった。</p>
1892	明治 25	<p>平野繁太郎 (1993 年平成 5 年 101 歳没)、浜北市。静銀頭取。</p> <p>銅板で日本博覧図静岡県初編発行。中町に木俣物産開設 5 代目千代八 25 歳。</p> <p>第 2 代目 笠井町長・鈴木新次郎。明治 25 年～明治 31 年の 6 年間。</p>

1893	明治 26	<p>内藤賢治、9月10日誕生。貴平町1394番地、市会議員</p> <p>笠井尋常小学校。浜松商工会議所設立。池田為吉、山下重平選出。</p>
1894	明治 27	<p>田村毅一、松風屋・浜名自動車工業社長。昭和、平成のリーダー（浜名会創設者、かささぎ大橋促進協議会会長）</p> <p>大木新一（昭和53年84歳没）、昭和21年22年笠井町助役。長男は大木新平（笠井小学校教諭）。</p> <p>豊田喜一郎、佐吉の長男。トヨタ自動車創始者。1952年昭和27年58歳没</p> <p>日清戦争。今泉時計店、開店。十湖の落款を彫った喜重郎（大正～昭和）、博善（昭和～平成）、好雄（平成～令和）今泉時計店、開業。初代進、2代目 喜重郎、三代目 博善（初代進は十湖の落款を彫っていた）。</p>
1895	明治 28	<p>田口雄太郎、田口薬局。笠井町長、浜松市市会議員、若倭神社禮大祭（倭魂社、政諾社、笠勢司）</p> <p>源長院梵鐘建立（総代・松島格太郎、松島四郎平、松島栄作、池田傳十、松島吉平、河合長明）</p>
1896	明治 29	<p>八木橋周助、5月17日誕生。浜松ディーゼル（株）社長。恩人宮本甚七。笠井自動車商会。遠州鉄道重役。</p> <p>舘山寺開発。妻まさ明治32年、幸男昭和9年、妻佑子昭和16年、長女昭和37年、二女40年、三女夕美42年、四女恵43年）。浜名郡笠井町。笠井委託（株）、鈴木新次郎社長。</p> <p>乗合馬車運行。笠井警察分署中町へ新築移転。百人一句塚できる。</p>

1897	明治 30	<p>笠井郵便局で電信始まる。笠井町長今泉保太郎、助役門奈五郎作、収入役大木久市郎。</p> <p>明治 30 年、笠井町商店の広告。</p> <p>◎豊田屋 大橋丑平 萬荒物卸。◎豊田屋 大橋定吉 下駄類、鼻緒類、荒物卸小売り。◎大橋屋 大橋菊多、履物、小間物、雨具。◎小西屋 小栗八郎支店。国産太物、洋物、小間物、袋物。◎小栗格太郎 国産太物商店。</p> <p>◎加藤徳次郎 古着卸商店。◎米屋 加藤伊久蔵、太物卸商店。◎廉屋 加藤儀八、古着、菅笠卸商店。</p> <p>◎米屋 加藤清平、米穀商、煙草仲買、米屋、加藤清七。◎廉屋 加藤平四郎、太物、肥料卸商店。</p> <p>◎廉屋 加藤幸八、国産太物商店。◎廉屋 高林宇平、古物卸商店。◎山梨屋 川合常七、揉綿、太物商。</p> <p>◎帯屋 池田龍之助 魚屋。出前仕出し、鯉節、青物。◎川嶋屋 川嶋清次郎 紙類、諸帳簿、学校用品、砂糖。</p> <p>◎谷本屋 神谷良八。萬織物、染物、糸繭卸。◎糸屋 河合久吉。生糸繭仲買。◎薬舗 田口長三郎、洋酒、絵具、砂糖、糸瓜、輸出生姜。◎浅羽屋 竹原弥吉。商業。◎中屋 名倉嘉蔵。和洋反物卸、紙類、雑貨販売。</p> <p>◎勉強店八木屋 松下長四郎。下駄製造鼻緒一式卸。◎津賀屋 福川善九郎。古着商。◎蛭子屋 藤井和助。糸類、色染、和洋糸。◎適宜屋 小倉忠平 旅館料理仕出し。◎米屋 寺田友次郎。米穀商糸繭売買。◎枡屋 寺田源次郎 漆器荒物商店。◎和泉屋 池田為吉。砂糖、紙、石灰、卸小売り。◎尾野屋 青島市平。糸繭売買商。</p>
------	-------	---

		<p>◎油屋 鈴木幸作。揉綿、油、肥料商店。◎嶋田屋 嶋田陽一郎。藍葉、藍玉、糸繭仲買商。◎布屋 墨岡兵三郎。国産織物卸小売り、養蚕業。◎玉明館 三浦梅吉。写真師、ゴム印。◎鍋屋 嶋田嘉平。呉服太物洋物卸小売り。</p> <p>◎天竜一 嶋田勘平。酒醸造業。◎和泉屋 木俣千代八。和洋反物卸商。◎泉伍 木俣伍三郎。太物卸商。</p> <p>◎泉一 木俣一郎。和洋小間物卸小売り。◎壽扇堂 松本末吉。菓子製造卸小売り、砂糖販売。</p> <p>◎保田屋春七 山下春七。呉服太物、洋物卸小売り。◎保田屋 重平。太物卸洋物書籍販売。</p> <p>◎金物保田屋 山下清七。鋳物荒物砥石農具時計養蚕用具販売。◎糸保田屋 山下吉十、肥料綿糸卸。</p> <p>◎木俣調剤薬局 木俣文四郎。◎定明寺住職 笠井辨秀。◎法永寺住職 横田儀辨。</p> <p>◎大傳寺住職 高見全意。◎法光院住職 黒澤倫長。◎今泉保太郎 俳号。積翠。</p> <p>◎西隠寺住職 岩田玄定。清風居随處、大木久市郎。</p>
1808	明治 31	<p>5代目 山下吉 (昭和 49 年 76 歳没)。慶応大學 4 年の時に父が死亡、戦後地主解体で笠井新田村へ引越。</p> <p>金田泰彦、金田屋北新屋。</p> <p>中村幸八 (1966 年昭和 41 年 68 歳没)、鈴木幸作の三男、雄踏の中村家に養子になる。衆議院議員六期</p> <p>田畑政治 (1984 年昭和 59 年 86 歳没)、東京五輪事務総長。造り酒屋、八百庄。</p>

		<p>藤井幸次郎、3代目山形屋。帯屋龍之助の弟太吉の次男が濱吉の養子に入った。</p> <p>森田福、11月19日誕生、笠井240、大正8年東京歯科大学卒、大正10年医師会設立、妻明治33年誕生、笠井銀行は資産銀行に合併。木俣物産（32歳）と加藤商事は鍛冶町へ移転。今泉保太郎町長。</p> <p>若倭神社の太鼓を鈴木幸作が寄贈した。</p>
1898	明治32	<p>4代目 山下重平（房治）、東大卒銀行重役歴任。金達磨販売、貸車庫造り、東南海地震で被害の観音堂を修復。</p> <p>金田榮一、9月22日誕生、笠井281番。26歳のとき大正14年金田織物、従業員34人、昭和2年社長。</p> <p>大正15年笠井信用金庫発起人。58歳に「笠井織物産業」の書を記す。山下貢、49歳逝去。</p> <p>鈴木幸十郎、2代目 油屋呉服店。</p> <p>鈴木逸平（昭和56年81歳没）。尋常小学校教員、笠井役場収入役、助役、笠井農業協同組合長、市政功労者。</p> <p>昭和32年～55年東農協副組合長、笠井土地改良理事長。</p> <p>中村達一郎（昭和47年73歳没）。浜松酒造社長、浜松信用金庫理事長。</p> <p>高柳健次郎（1990年平成2年91歳没）。浜松テレビ。テレビジョン開発、「イ」の字で映像送信成功、第1号。</p> <p>若倭神社の本殿を新築。祭典日は8月16, 17, 18日。</p>

1900	明治 33	<p>山下保治（昭和 42 年 67 歳没）、3 代目 金物保田屋。道路拡張で、屋敷の南側を提供。</p> <p>第 12 代目 鈴木和三郎、28 歳のとき昭和 2 年に神勢團独立。屋台、屋台小屋建設のリーダー。</p> <p>3 月 9 日、御手洗清、豊町 6014 番地。郷土の偉人 30 冊余を著書。妻ますゑ明治 40 年、長男泉昭和 7 年。</p> <p>白井鐵造（1983 年昭和 58 年 83 歳没）、春野町出身。宝塚歌劇団演出家、「すみれの花咲く頃」を作詞。</p> <p>笠井街道は遠陽市場を通過して二俣まで開通。パリ万博で笠井の糸瓜（ヘチマ）高評価を得る。</p>
1901	明治 34	<p>門奈仁平（昭和 50 年 74 歳没）、友情の糸瓜（池谷千松校長の時代に毎年糸瓜の苗を笠井小学校へ 5000 本寄贈。県知事賞受賞。</p> <p>中道朔爾／さくじ（1957 年昭和 32 年 56 歳没）、土のいろ社を結成。浜松市郷土史家。</p> <p>竹山祐太郎（1982 年昭和 57 年 81 歳没）、建設大臣。静岡県知事。</p> <p>5 代目 山下吉十の妻きく（平成 8 年 96 歳没）。</p> <p>笠井委託（株）が笠井銀行の名称に。頭取鈴木新次郎、役員は同じ。</p>
1902	明治 35	<p>石神幸次郎、鈴木幸作の四男、石神家の養子となった。大正 12 年油幸米穀店を開業した。（泉一の店を買収）</p> <p>天満宮（御仮屋建設）。中町浅羽屋の火事。浅羽屋は東裏へ引っ越す、跡地に東への道路できる。</p>

1903	明治 36	長谷川保（1994 年平成 6 年 90 歳没）、聖隷福祉事業団創業者。衆議院議員。
1904	明治 37	西村浩一郎、西村時計店 2 代目。 本町永世銀行、上町に資産銀行開店。池田橋流失。水車ガラ紡廃止。源長院に戦死友月句碑群。
1905	明治 38	渡辺三郎。妻は掛塚の津倉家の出。山下吉十と親戚。
1906	明治 39	本田宗一郎（1991 年平成 3 年 85 歳没）。世界のホンダ。報徳を実践。 平山博三（1990 年平成 2 年 84 歳）、浜松市長 5 期歴任。 榎吉良三（平成 5 年 87 歳没）。祖父瀧三は横須賀藩の大庄屋で貴族議員。榎吉純の長女榎吉加代の養子。笠井郵便局長を務めた。 島田良太郎、16 歳の時に浜一中の在学中に父死亡。鍋屋呉服店。春日神社中町総代。 福来寺に一人一句塚（随處）。日本形染（株）社長宮本甚七。取締役木俣千代八 39 歳。
1907	明治 40	松田荒太郎、松田屋創業。報徳商人。笠井中学校へ二宮金治郎の銅像を寄贈。 松島芳郎、笠井中学校教諭。監督として野球部の黄金時代を築く。 笠井報徳社（社長大木久市郎、副社長鈴木新次郎）。十湖宗匠より俳号譲渡されて七十二峰庵随處となった。

1908	明治 41	寺田隆治、寺田米穀店。小倉太郎、日本楽器役員。
1909	明治 42	15 代目 榎吉竹治（平成 2 年 81 歳没／大智院開譽昌竹山居士）。昭和 2 年浜松酒造に奉公に出る。昭和 9 年 25 歳で美濃屋酒店を開業。 古木勇、遠州織物組合役員。浅野敏樹、浜商野球部を作った。 鈴木敏郎、3 代目 油幸。油屋。肥料。 少年消防隊出動。笠井尋常高等小学校となった。
1910	明治 43	池田幸一、帯屋 14 代目。戦後の魚屋営業。有限会社おびや社長。 鈴木与平（1993 年平成 5 年 83 歳没）、鈴与 7 代目社長。 西小栗家、先祖天照院殿前金氏太陽宗平大居士（明治 43 年 3 月小栗佐太郎祐佑建立） 笠井郵便局で電話始まる。
1911	明治 44	9 月 14 日、加藤恒七。笠井 109 番地、早稲田大学卒。1929 年昭和 4 年 18 歳の時父 42 死去。祖父 67 歳。 昭和 7 年に恒七商店開業、祖父 70 歳。クレアシオン（株）社長（長男匡紀昭和 18 年、次男有是昭和 22 年 1 月 テンプル大学卒、三年克朗昭和 27 年慶応卒）

		<p>慧文和尚、源長院住職。</p> <p>福来寺の御開帳。笠井天産物業者の寄付金あり。寄附単の石碑あり。</p>
1912	<p>明治 45</p> <p>7月30日</p> <p>大正 1</p> <p>9月4日</p>	<p>山下龍郎（昭和 53 年 66 歳没）、金鷄勲章受章。保田屋春七は織布業。</p> <p>3月20日、笠原栄一。妻 林子大正 6 年 3 月（長男茂宏 昭和 15 年、次男雅宏 昭和 18 年 1 月、3 男裕 昭和 22 年）昭和 22 年に笠井へ来て笠原洋服店を開く。</p> <p>明治 4 5 年 7 月 2 9 日明治天皇崩御。</p> <p>7 月 30 日大正に改元</p> <p>中村正一郎、8 代目 酒屋中村市左衛門末裔。金指から浜松市へ引っ越して織布業。帯屋龍之助の妻の兄の長男。</p> <p>夏目重雄、夏目化粧品小売り。</p> <p>小倉三夫、小澤屋総合衣料店、骨董屋。平成 28 年廃業。</p> <p>川上源一（2002 年平成 14 年 90 歳没）。4 代目 日本楽器社長。ヤマハ発動機中興の祖。</p> <p>島田圭司、7 代目 島田屋。銀行員、自治会長。</p> <p>日下部孝、北浜屋創業者。浜松市市会議員。</p>

1913	大正 2	<p>小倉敬一、小倉一丸長男。内藤医院を買収した。</p> <p>影山國一、元校長。笠井仲町自治会長。笠井商店会事務局長。政諾社屋台建設委員長。</p>
1914	大正 3	<p>5 代目 山下光夫、4 代目 山下重平の養子。山下医院開業。福来寺奉賛会会長。</p> <p>松下幸夫。31 歳でニコニコ会の幟。医薬品、滋養品、洋酒、染料、絵具、和洋漢方薬、薫香品を販売</p> <p>4 月 3 日、9 代目米保田屋（高譽得昇居士）。山下藤吉の父。</p>
1915	大正 4	<p>伊藤信一、本町へ移転して日本通運の運送と日通プロパンも行う。袴田清十、萬屋主人古物商。</p>
1916	大正 5	<p>袴田勤多郎、日吉軒に養子となる。浪曲が好きで屋号を中央軒と改名した。</p> <p>岡本永夫、御嶽神社。新築の建設委員長。</p>
1917	大正 6	<p>木俣千代八 50 歳、浜松商工会議所理事。</p> <p>西小栗家、4 月 3 日幸誉院優屋祐成大居士（小栗佐太郎の墓）。大正 6 年 9 月 11 日小栗弥市建立。</p>
1918	大正 7	<p>山下太次郎没。山下佐治平（笠井の庄屋）。笠井町 359 番地山下貢除籍簿。</p> <p>米保田屋山下藤吉 66 歳。亀吉、菖蒲^{あやめ}刀を譲り受けた。</p>
1919	大正 8	<p>松本貞一。中日プロ野球選手の木下氏が笠井に来る。笠井町マツモト陶器店（芳郎の兄）。</p>

1920	大正 9	<p>上田毅一郎、貴平町に住む。船舶、軍艦などを描く。画伯。イラストレーター。</p> <p>黒澤祥龍、法光院住職。福来寺住職。増上寺御詠歌指導。</p> <p>遠州銀行は（資産銀行と西遠銀行）を吸収合併する。</p>
1921	大正 10	<p>3月1日池田譲、昭和16年早稲田大学卒、昭和20年いけとも社長。笠井商店会会長、春日神社総代。</p> <p>妻みどり大正12年6月2日誕生。長男吉仁昭和21年、長女昭和23年、次男昭和25年。</p> <p>高林駒吉、高林家具店創業。油絵、春日神社総代。田中清一、田中酒店、日通勤務。</p> <p>秋山恭一（秋山染色次男）。門奈栄三郎。中安啓児。</p>
1921	大正 11	<p>山下修一、米保田屋。織布業。藤田真次郎、藤田肥料、源長院の世話人。池端忠雄、阪神プロ野球選手。</p>
1923	大正 12	<p>小杉茂、仲町氏子総代。笠井郵便局勤務。</p> <p>7代目 島田圭司、嶋田勘平子孫、仲町自治会長。</p> <p>松谷正十三。池端忠男。黒澤静男。神谷巖。</p> <p>大正12年10月31日、天長節。祝賀花電車絵葉書4枚（松下薬局にあり）。</p>
1924	大正 13	<p>寺田好、寺京織布業。全日本健康マラソン会長。地元での要職を歴任した。</p>

		<p>12月12日松島勇平。昭和19年三立製菓入社、昭和46年社長（妻康子大正15年1月、母まさ明治23年）。</p> <p>栗原勝、浜松市市長。</p> <p>芦原八郎。石神貞三郎。門奈永三郎。</p>
1925	大正14	<p>鈴木与士夫、家は若林の春日神社西隣。春日神社のしめ縄のための米作を引き継ぐ。白丁。定明寺の世話人。</p> <p>加茂章一、笠井から東邦商業学校にて硬式野球で活躍。石津光夫。</p> <p>木俣千代八58歳のとき日清紡績を浜北貴布祢へ誘致。</p>
1926	大正15	<p>小倉三夫、小沢屋総合衣料。骨董収集。平成29年に閉店。犬塚義明。初村左一。</p> <p>久島實（平成21年83歳没）。33歳で平山市長公室長。総部部长、企画調整部長、水道下水道管理者、53歳～65歳、栗原市長収入役。64歳フラワーパーク理事長。平成4年慈光会会長。平成6年笠井観音像御開帳責任者。</p> <p>源馬弘（2006年4月没）、笠井電機創業。浜松市市会議員。浜名会会長。</p> <p>大村増夫。石津澄夫。鈴木敏三。</p>
	昭和元年	<p>笠井信用金庫開設・5代目 山下吉十組合長。氏子総代、精華団より三上義武56歳が参加。神勢団独立。</p> <p>12月25日大正天王崩御。12月26日～昭和元年。</p>

1927	昭和 2 3月4日	<p>金田晴次、金田屋 3 代目。金田屋閉鎖。長男はカネタ耳鼻咽喉科開院。</p> <p>高林嘉平、織布業。ガソリンスタンド経営。</p> <p>松本芳郎、マツモト陶器。笠井商店会会長、事務長。</p> <p>9月16日神谷昌志。尾張町 91 番地。郷土の歴史家、下石田町神谷與平治が父の在所。</p> <p>中村雄二、大日本報徳社副社長。西遠報徳社社長。出世城を平喜へ売却。</p> <p>神勢団山車参加。袴田清吉、袴田春吉が天満宮に若倭神社の幕を奉納。</p>
1928	昭和 3	<p>鈴木康平、油屋呉服、衣料店 3 代目。竜西商店会連盟、笠井商店会会長。春日神社本町総代。自治会長。</p> <p>精華団より年番、福代与助が参加。</p>
1929	昭和 4	<p>2月23日田村慎一。笠井 158 番地。昭和 24 年浜名自動車工業（株）入社、33 年に社長。浜名ワークス社長。</p> <p>高林哲夫、河合楽器野球監督で優勝。浜松工業高校の監督で甲子園出場。</p>
1930	昭和 5	<p>木村徳衛、春日神社総代。自治会長。大木和子と大木随處の初孫。</p> <p>小栗一雄（1999 年 7 月 18 日没）、米五店主。後年閉店。</p> <p>中村哲夫、文泉堂店主。</p>

1931	昭和 6	渥美祐一。寺田隆夫。今井重隆。松島初雄。 山下太次郎逝去。山下佐治平、笠井町 359 番地、(山下貢除籍簿)。山下藤吉 66 歳、亀吉 41 歳、菖蒲刀譲渡)
1932	昭和 7	金田吉夫。門奈道夫。砂子力。館栄二郎。
1933	昭和 8	大木春秋。山下周衛。西尾一男。池川英雄。高林慶吉。
1934	昭和 9	榎吉正幸。八木橋幸夫。鈴木繁弘。高林宏。石津一志。中津川志郎。竹内正治。 石神清 (令和 5 年没)。後の笠井神社宮司。 鈴木基司 (平成 25 年 12 月 4 日 79 歳没)、春日神社の東隣に住む。上の小栗家 (米五) から婿養子。笠井まつりの全てに尽力。笛の名手。神勢団の御囃子を指導。
1935	昭和 10	鈴木健。池田欣哉。高柳弘。大木正彦。鈴木幸市。河内道守。池田真澄。
1936	昭和 11	松田誠一郎。鈴木眞司。山野肇。金田実。松下福次郎。小野鈿。 木俣千代八 70 歳没、弟政八が木俣物産を継ぐ。
1937	昭和 12	小栗寛。春日神社総代。 山下嘉三。高井章好。鈴木正勝。小栗清三。

		<p>西山（令和5年没）。定明寺住職。</p> <p>大谷洋介、先祖は法林寺総代平子家。母の叔母の大谷勝吉家へ養子。母の在所は磐田の太箸家助門さま。</p>
1938	昭和13	波多野孝一。山下正通。田地川芳英。榎吉清光。松島勝。鈴木保夫。春日神社は郷社となった。
1939	昭和14	田中充。坂田徳治。村木和見。
1940	昭和15	<p>池田充義。帯屋。笠井商店会会長。だるま会会長。笠井地区の歴史や文化を次世代につなげる活動をしている。</p> <p>小倉省一。木村翼。袴田一郎。河合譲。池田嘉則。榊原安芳。</p>
1941	昭和16	<p>榎吉平之助。伊藤伊佐夫。川島庸夫。松島脩一。小栗勝利。門奈運東。高津昭司。石神勲。鈴木祐佑。高林繁樹。</p> <p>奥島喜兵。宮澤好夫。</p>
1942	昭和17	岡本重任。鈴木昭男。吉田勝義。
1943	昭和18	<p>田村滋治。松風屋。笠井商店会会長。だるま会会長。</p> <p>村木千代八。笠井上町。だるま市でだるま会館の展示を担当。</p> <p>山下勝哉。佐藤昭夫。川合昭人。鳥井正昭。松井敏弘。五味昌平。</p>
1944	昭和19	池川文男 池田周弘 田辺勝也 須山孝幸

1945	昭和 20	8 月 15 日終戦。 牧野良香。書道家、米粒に文を書く。福来寺の門に笠井観音の揮毫。だるま市での奉仕活動に尽力。
1946	昭和 21	東海産業（株）加藤英治郎社長。昭和 29 年大和紡績連携工場となり飛躍。遠州金鳥会の重鎮。ブロード、別珍 コールテン、先染織物、年商 8 億円。織機 112 台。外注 600 台。昭和 44 年に笠井自宅は松井敏弘に売却。 池田吉仁。加藤有是。
1947	昭和 22	森下政洋。竹本克巳。
1948	昭和 23	照井清一。松本久和。中野。
1949	昭和 24	田中清。山下昭夫。
1950	昭和 25	鈴木廣。春日神社の西隣に住む。春日神社のしめ縄用の稲を提供。定明寺世話人。メロン農家を長年営む。 高林修。 高橋和夫。
1951	昭和 26	飯田忠雄。大木哲也。
1952	昭和 27	佐野正巳。

1953	昭和 28	北脇保之。
1954	昭和 29	内藤貴彦。貴平の表内藤家主人。 大井克美。やまや酒店。セブンイレブンのオーナー。 松島隆康。西の山。西魁団の立ち上げに尽力。 小倉康次。笠勢司。
1955	昭和 30	鈴木智暢。春日神社の東隣が実家。鈴木基司の長男。笠井まつりのポスターのデザインを 2012 年から奉納。 笠井意図向サイトの立ち上げに尽力。笠井の伝統と文化の継承に努める。
1956	昭和 31	
1957	昭和 32	鈴木康友。 清水寿彦。加藤久志。
1957	昭和 33	
1958	昭和 34	

1959	昭和 35	鈴木真人。 山下智之。賀茂真淵翁遺徳顕彰会会長。大日本報徳社浜松館・西遠連合報徳社の代表理事社長。笠井報徳社社長。
1960	昭和 36	石野遊宇。富田一彦。
1961	昭和 37	
1962	昭和 38	
1963	昭和 39	
1964	昭和 40	
1965	昭和 41	
1966	昭和 42	
1967	昭和 43	
1968	昭和 44	
1966	昭和 45	中野祐介。
1970	昭和 46	

1971	昭和 47	
1927	昭和 48	
1973	昭和 49	
1974	昭和 50	

未調査の人も多数あります。寺田佳織、松島修、松島眞司、高井誠一、守屋三郎、石神光雄、名倉徳太郎、古木貞一郎、古木五郎三郎をはじめ多くの方の情報は不足しています。ご自宅などに関連資料がありましたらぜひ、ご連絡を頂けますようお願いいたします。大切な資料ですので、こちらで丁寧に複写などさせて頂き原本はご返却いたします。または、コピーや複写の状態でご提供頂いても助かります。

大事な笠井地区の財産を皆さんのご協力の下で未来につなげていけたら幸いです。